

地域おこし協力隊通信

第5回



今月のリポーター：

森山健吾隊員

皆さんこんにちは!!
5回目の協力隊通信担当の森山です。

さて今回は、9月2日(月)～6日(金)の5日間参加した「あやめ笠づくり講習会」についてです。

シルバー人材センターにて開催され、4名の受講者が集まりました。少ない人数ではありませんが、その分講師の方々からマンツーマンで教えていただくことができました。

「あやめ笠」は、あやめまつりの期間中よく目にしている、実際に被ったこともありました。そ

の中で、どのように作られているのか、そして何よりも「実際に作ってみたい!」という気持ちから参加を決めました。

また、現在作り手の方が少ないという状況も聞き、私が参加し体験した様子などを情報発信することで、一人でも多くの人(特に若者)に興味を持ってもらえたらという気持ちもありました。

参加して感じたことは、想像以上に作るのが難しかったということですが、何個も作っていく中で、徐々に作り方は身についていきましたが、見栄えの部分ではまだまだでした。(期間中、小笠3つと風鈴付きの笠1つを作りました)

「あやめ笠」を見たこと・聞いたことはあってもどうやって作るのか、まして実際に作ったことのある人は少ないと思います。自分で作ることで感じる力ができると感じます。今後も講習会を開催する予定ということですので、ぜひ、参加してみたいかがでしょうか。

まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

潮来市の誇れる自然

第46回

全国の大学生向け実習「追跡!巨大ナマズ」が大盛況!

茨城大水圏センター(潮来市大生)は、全国の大学生たちが湖の環境問題について体験的に学べる施設として、文部科学省に認定されている国内唯一の臨湖実験所です。今年の夏休み中も、北浦をフィールドに学びたい学生たちがひっきりなしに訪れてくれました。

8月16～18日の公開実習「追跡!巨大ナマズ」湖沼の外來生物問題の最前線」には、北海道大、北里大、東洋大、帝京科学大、東京大、東京農工大、信州大、近畿大、愛媛大のフィールドに強い学生たち18名が参加しました。この実習の教材は、北浦にたくさん生息している、北アメリカ原産の外來ナマズ(チャネルキャットフィッシュ)です。1日目は個人対抗の駆除釣り大会で、湖内にたくさん生息していることを体感。また、食性調査を通して外來ナマズの脅威も理解してもらいました。2日目は湖岸でさまざまな方法で魚類を採集し、いまの北浦に絶滅危惧魚種やワカサギ・シラウオ・エビ類などが生息していることも確認しました。夕方からは、学生たちが考案した駆除方法を使って、2班に分かれて駆除数を競い合いました。

外來ナマズとどう付き合えばよいかについて、真剣に議論しました。学生たちからは、「他地域にも分布拡大しているのだから、この地域からの情報発信を急ぐべき」、「一般の人たちに知ってもらうことが大切、そのための釣り大会を企画してはどうか」、「美味しい魚なので食べるイベントも重要」など、様々な意見がありました。今年も学生たちが湖の環境問題や地域の魅力を学ぶ良い機会となったようです。

茨城大学広域水圏環境科学
教育研究センター
加納光樹



小型地曳網での魚類調査



釣獲されたチャネルキャットフィッシュ



参加者で記念撮影



採集された魚たち